

## 18 世紀英国の文学と思想を眺める

教授 中 島 渉

## 1. 研究内容

18 世紀のイギリスは、風刺全盛の時代。お堅い本から軟派な雑誌まで、罵詈雑言(?)の嵐。しかし、そのような言説の中には、当時の社会情勢や作者の思想傾向が豊かに織り込まれていて、意味がわかるとなかなか面白いものです。文章の行間に流れている思潮や世界観といったものを読み解いてみましょう。

本ゼミでは特に、当代随一の風刺作家であるジョナサン・スウィフト(1667-1745)の作品を精読します。とりわけ代表作として知られる『ガリバー旅行記』(1726)は風刺文学の最高峰とされ、裏読みの可能性が広すぎるために、600 ページを超える大規模な注釈書が(しかも日本で!)出るほどです。子供時代に目にする絵本からは想像もつかない、エロ・グロ・ナンセンス、何でもありの、無茶苦茶で壮大な世界があなたを待っていることでしょう。古い英語を読むと、(錯覚もあってか?)現代英語がやさしく見えるようになるので、英語の勉強にもなると思いますよ。

## 2. ゼミの進め方

## 《2年次》

春学期は近世イギリスの時代背景の説明とあわせて、『ガリバー旅行記』を第1部からつぶさに精読する。本文の一言一句をさらい、注も丹念に検討する。秋学期はそれぞれの関心に応じて適宜討論等も行う。合宿は行わない。

## 《3年次》

春学期はテキストの精読と平行して、論文執筆の作法を伝授する。論文のテーマを決め、各自でリサーチを行い、執筆の準備を開始する。秋学期は担当教員の個人指導を受けながら論文を完成させる。合宿は行わない。

## 《4年次》

春学期は作品そのものの読解だけでなく、文芸批評にも焦点をシフトしていく予定。秋学期は執筆した論文の合評会も行う。合宿は行わない。

## 3. 教材

＜教科書＞ Jonathan Swift, *Gulliver's Travels*, edited by Claude Rawson, notes by Ian Higgins, Oxford World's Classics (Oxford University Press, 2005).

＜参考書＞ スウィフト著、富山太佳夫訳、原田範行・服部典之・武田将明注釈『「ガリヴァー旅行記」徹底注釈』(本文篇・注釈篇)(岩波書店, 2013年)。Wataru Nakajima, *Jonathan Swift as a Conservative Trimmer: An Ideological Reading of His English Politico-Religious Writings, 1701-1726*, Academic Publication Series of the Institute of Humanities, Meiji University (Kinseido, 2020). 【参考書は購入を前提としていません。興味があったら図書館等で実際に触れてみてください。いろいろな発見があるはずです。】

## 4. 成績評価の方法

平常点+発表+提出課題に、授業態度を加味して総合的に評価。

## 5. ゼミ入室試験(選考方法)

選考方法は、各 Oh-o! Meiji グループの概要欄を確認すること。

## 6. その他・志願者へのメッセージなど

テキストの輪読が授業の根幹となります。300年くらい前の英語を原文で読みます。最初はとっつきにくいかもしれませんが、ベースは実は現代英語と同じです。慣れてくれば、少なくとも、誤読・誤解のない外国語の捉え方は身につくでしょう。特段に英語が得意である必要はありませんが、辞書と首っ引きで取り組む気概のある人を歓迎します。現代日本にあるまじき(?)牧歌的なアカデミアの空気を満喫しながら、近代はじめのヨーロッパの活字世界にタイムトリップしてみませんか。